

2. 取組を進めるに当たり困難であった事例について

F. その他

①大学院生・研究者等の積極的な受入・派遣等

《医療系》

●東京大学新領域創成科学研究科メディカルゲノム専攻

「メディカルゲノムサイエンス・プログラム」の事例

(具体的に何を実施し、何が困難であったのか)

国内外の先端的研究者を講師に招いてセミナーを開催したが、国外、国内から招聘する旅費の手当が難しかった。

(苦労したこと、困難であったことの具体的な要因は何だったのか、それにより実施内容がどのような影響を受けていたのか)

理由は、講演者を単独に招待するには経費的な負担が重く、当教育プログラムにふさわしい研究者が学会参加等で上京あるいは来日した際にその都度機会を見て依頼せざるを得なかった。従って、計画的な配置が出来ず、当初計画より少数の開催となった。

(どのように対応し、どのような結果が得られたのか、また、その結果が望ましいものではなかった場合、あらかじめどのように対応していれば適切であったのか、どうすればより良い結果を導くことができたのか)

実際に開催したセミナーは、平成19年度は、外国人講師2回、国内講師4回；平成20年度は、外国人講師1名、国内講師1名（ただし、この年度にはシンポジウムを開催し、国内講師3名を招聘）；平成21年度は、外国人講師3名により、それぞれ独立したセミナーとして都度開催した。

学生への教育の機会として貴重であるため、計画的に研究者の情報を収集し、継続的な開催の工夫をする必要がある。